

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

サンバード 茶屋町

日付 平成 21年 3 月 30 日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

久しぶりに訪問すると、以前と変わった部分と変わらない部分が見えてくる。まず、ホームの外にある菜園は以前のように野菜が育っている。聞いてみれば芋掘りも楽しんだとのこと。利用者の屋外での活動の一端が今も続いていることが伺えた。

利用者も職員も少しずつ入れ替わっている。人が変われば取り組む作品も変わり、こすもすユニットでは今は貼り絵の大作が素晴らしい。さくらユニットの“エジソンさん”のたくさんの作品と菊作りは、今も変わりなく続いている。両ユニットでは取り組むことがそれぞれ違うが、どちらのユニットでも、掃除や調理など利用者自身がしたいと思うことを積極的にしている。できることだけでなく、過去にできていた素晴らしいことや、現在の優しい性格まで、職員がいつも利用者一人ひとりの良い点、自慢出来る点を十分に誉めている。そのことで、利用者が自信を持って色々な取り組みを続けたり、仲間と話をしたりすることができ、日々充実した生活をする事ができていると思う。それは、利用者一人ひとりの性格や経歴を十分把握し、その人に適した支援が何かを検討し、直接手を出すのではなく、準備や下支えをするという、綿密な計画に沿った支援ができている結果だと思ふ。

排泄の介助や誘導など必要な身体介護と、健康面への配慮も十分に行っている。看護職員がいることもあり、医療連携に力をいれており、健康チェックや口腔ケアなどを始め、様々な病気の予防に力を入れており、しばらく風邪に掛かった人がいないことが自慢となっている。

小学校との交流は以前と同じように続いている。生徒から利用者個人宛に届いた手紙を居室入口に貼ってあり、利用者は自慢そうに眺めている。この交流は双方にとっても役立っていると思うので、今後も続けてほしい。今後は、地域交流をさらに町内会へと発展させていきたいと願っているとのことである。

特に改善の余地があると思われる点

小学校との交流が以前から続けられ、生徒と利用者との双方に素晴らしい影響を生んでいるが、町内会ともよい関係を築くことを今後の取り組みとしているとのことである。運営推進会議に町内関係者を招いて、まずホームを知ってもらうことから始めてほしい。住民との交流の中から、災害時支援をお願いすることや認知症への理解を深めてもらうことが出来ると思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ホームの職員は理念を理解し、その実践に努力している。その取り組みを地域住民に広報していくことを目指し、運営推進会議を始め町内会への働きかけを考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者の想いを聞き取り、その経歴や経験を大切にして、生活の中に生かせるよう支援している。現在できる能力を引き出すだけでなく、過去に持っていた素晴らしい経歴や能力を讃えることで、利用者に自信を持たせ、生き生きとした生活を送ることができるように支援をしている。実際に作品作りなど色々な取り組みを続けている人がいるほか、職員が以前の業績や習得していた特技などを話題にすることで、利用者がうれしそうに会話できている。一人ひとりが自信を持って安心して生活できるホームと言える。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：設備が整い、空間を利用者のためを考慮有効に利用しており、問題となる項目はない。</p> <p>2. 全体的に見て…：リビングルームのソファや食卓には、いつも利用者が多数集まり、テレビを見たり、体操をしたり、歌ったりおしゃべりしたりしている。利用者が作った作品や日常を写した写真を多数展示しており、利用者や家族が楽しんだり自慢したりできる。居室内の洗面台、4ヶ所あるトイレは便利である。ユニット間のウッドデッキは利用者が自由に出入りでき、行事にも活用している。菜園もあり利用者が水遣りや収穫などを楽しんでいる。十分な広さと行き届いた設備を、利用者の生甲斐のために生かしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：利用者の能力を引き出して生き生きとした生活ができる支援をしており、問題となる項目はない。一時的な対策として夕方玄関をロックするが、利用者への対応を工夫し、やめる方向である。</p> <p>2. 全体的に見て…：ユニット毎に独自の工夫があるが、両ユニットとも利用者の心身の健康の維持向上に力を入れている。利用者一人ひとりの心身の状態や、性格や経歴を十分把握した上で、その人が自主的に力を発揮できるようなことを引き出してあげ、利用者は生き生きと生活できている。作品を展示して取り組んだ結果を評価したり、園長の経験や英語が得意だったことなど過去の素晴らしい経歴を誉めてあげたりすることにより、利用者一人ひとりに自信を持たせている。利用者は好きなこといつまでも取り組むことができ、自信を持ってみんなと話をすることができている。医療連携にも力を入れており、看護師を中心に健康面での十分な配慮があり、病気の予防にも努めている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：地域交流として、小学校生徒との活発な交流や近隣住民との個人的な交流があるが、今後はさらに町内会との交流を深めていく方針である。</p> <p>2. 全体的に見て…：法人・管理者・職員が協力してより良いグループホームを作り上げていこうと努力している。ホームから家族へは利用者の情報を送り、家族も面会や行事によく訪れて利用者を支えている。家族同士の交流の機会を設けて家族の意見を聞き出せるようになれば、さらにケアの充実につながると思う。これまでも地域交流には良く取り組んでいるが、さらに町内会との交流を実現させ、災害時の支援要請や地域貢献も行ってもらいたい。</p>		